

巡回共同企画展

線路の記憶

～大正から昭和を
走り抜けた鍛冶屋線～

【期 間】

令和6年1月27日(土)～2月25日(日)

【開催場所】

那珂ふれあい館

〒679-1105 多可町中区東山539-3

Tel: 0795-32-0685 Fax: 0795-30-2730

mail: fureaikan@town.taka.lg.jp

【開館時間】 午前9時～午後5時

【休館日】 毎週月・火

(但し、月・火が祝休日の場合は翌水曜休館)

【期 間】

令和6年3月2日(土)～4月7日(日)

【開催場所】

西脇市郷土資料館(生活文化総合センター2F)

〒677-0015 西脇市西脇790-14

Tel: 0795-23-5992 Fax: 0795-22-5580

mail: shiryokan@city.nishiwaki.lg.jp

【開館時間】 午前9時～午後5時

【休館日】 毎週月曜日

(但し、月が祝休日の場合は翌平日が休館)

巡回共同企画展『線路の記憶 ～大正から昭和を走り抜けた鍛冶屋線～』

大正2年(1913)4月1日、播州鉄道株式会社によって、加古川駅～国包駅(現厄神駅)が開通、同年8月10日には国包駅～西脇駅が延伸開業、同年10月22日に野村駅も開業し、鍛冶屋線の歴史ははじまります。その後、大正10年(1921)5月9日西脇駅～市原駅、大正12年(1923)5月6日には市原駅～鍛冶屋駅が延伸され、全線開通となり、事業を継承した播丹鉄道によって運営されていきます。

鍛冶屋線の開通は、馬車や水運に頼っていたこの地域の交通を飛躍的に改善し、地場産業であった播州織、木材、酒造米などの大量輸送を実現し、多可・西脇地域の飛躍的な発展に大きな役割を担いました。第2次大戦中には戦時買収により国有化された後も、地域交通、経済、社会生活に大きく貢献した鍛冶屋線ですが、昭和40年代以降のモータリゼーションの波にのまれ、急激な社会経済の変化も相まって、次第に旅客、貨物の輸送量が減少。分割民営化により国鉄からJR西日本に民営化された昭和61年(1986)、第3次廃止対象区特定地方交通線に指定され、住民主導の存続運動が繰り上げられる中、平成2年(1990)3月31日に廃線となり、その役目を終えました。

現在、鍛冶線の線路敷きは道路化され、主要交通路として生まれ変わっていますが、鍛冶屋線は人々の記憶の中で走り続けており、当時の各種鉄道資料は記念館等に保管されているほか、存続運動から生まれた住民運動は新たなまちづくり運動へと継承されています。

鍛冶屋線全線開通から100年が過ぎましたが、鍛冶屋線が活躍していた当時の写真や資料を展示し、その記憶を甦らせるとともに、今後の当地域の地方交通の在り方を考えるヒントの一助になることを期して開催いたします。

特別講演会

多可町会場 令和6年2月18日(日) 午後1時半～

『廃線から34年 ～鍛冶屋線の言伝え～』

元カナソ・ハイニノ国内閣官房長官 小嶋 明 氏

【場 所】 那珂ふれあい館 研修室

【参加費】 100円(資料代) 要予約 【定 員】 50名

【申込・問合せ先】

那珂ふれあい館 TEL: 0795-32-0685 Fax: 0795-30-2730

mail: fureaikan@town.taka.lg.jp

*休館日: 毎週月・火(但し、月曜もしくは火曜が祝休日の場合は翌水曜日が休館)



特別講演会

西脇会場 令和6年3月17日(日) 午後1時半～

『鉄道構造物からみた播州鉄道と鍛冶屋線』

兵庫県立歴史博物館 鈴木 敬二 氏

【場 所】 生活文化総合センター 1Fミーティングルーム

【参加費】 100円(資料代) 要予約 【定 員】 50名

【申込・問合せ先】

西脇市郷土資料館 TEL: 0795-23-5992 Fax: 0795-22-5580

mail: shiryokan@city.nishiwaki.lg.jp

*毎週月曜休館(但し、月曜が祝休日の場合は翌平日が休館)

